

Welcome

未曾有の時代を生き抜くために

to

them



「未曾有の時代を生き抜くために」

コロナ禍から世界の異常な現状に気づいた人たちが増えています。

新型コロナ騒動から始まった地球規模での混迷は、それまで隠されていた多くの問題が表に現れるきっかけとなりました。

日本国民の80%が接種した新型コロナワクチンは、効果も安全性も十分に確認されないまま承認され、ワクチン後遺症の報告事例は後を絶ちません。

医療の問題にとどまらず、遺伝子組み換えやゲノム編集作物、農薬や化学肥料の使用などによって私たちの食の安全は脅かされています。また、食品添加物などの不自然な食べ物を摂り続けることで、食原病の被害も深刻化しています。

なぜこのような事が起こったのでしょうか？

これまで私たちはメディアの情報を疑わず、政府の発言を信じ、偏向報道を鵜呑みにしてきたからです。

その背景には、戦後、日本人の精神に罪悪感と自己卑下が植え付けられ、古代から大切に繋いできた信仰心が失われた歴史があります。無知や抑圧、嘘の連鎖により、私たちは本来の自然な姿をあらゆる面で失ってきました。

しかし、この現状に気づく人々が今、少しずつ増えています。

私たちは今、真に賢くならなければなりません。個人の健康被害だけでなく、日本国そのものの存亡が危ぶまれる状況に直面していることを自覚する必要があります。



由井寅子 CHhom 名誉学長はこう語ります。

「これから来る未曾有の時代を生き抜くために——

災害時や病気の際には、そばに医師がいないことを想定して、自分でホメオパシーのセルフメディケーションができるよう勉強しましょう。どこでも、いつでも自然免疫を学習させ、高めていけるように。自ら健康になるために、ホメオパシーのホームキットを持つことをおすすめします。また、強い心が大切です。インナーチャイルドを癒し、忍耐力と信仰心を養いましょう。これからの時代、お金よりも大事なものは、自分を救う知識と技術です。」

CHhom では、創設者である由井寅子名誉学長の理念に基づき、「人を健康に、治癒に導くためにはどうすればよいのか？」に注力したカリキュラムを確立しています。

そのため、ホメオパシーの技術だけを学ぶのではなく、「人間はどう生きるべきか？」という人間の本来の核心に一人ひとりが向き合い、幸せに生きる哲学を学びます。

ZENホメオパシーが未曾有の危機を自力で乗り越える力となり、混迷の時代にあっても、勇気、希望、感謝と愛に溢れた人生を歩めるよう願っています。

Contents

未曾有の時代を生き抜くために	02
01 ホメオパシーとは	05
02 バイタルフォースとは	07
03 レメディーとは	08
04 希釈振盪とは	10
05 ホメオパシーの科学的根拠	12
06 日本の同種療法	12
07 ホメオパシーと現代医療	14
08 ZENホメオパシー	16
09 インナーチャイルド癒し	17
10 食養生	18
11 信仰心の向上	19
12 水のレメディー・祈りのレメディー	19
13 世界で親しまれるホメオパシー	20
14 CHhomについて	21
由井名誉学長とホメオパシー	22
CHhomコース紹介	26
学校紹介	27



01

ホメオパシーとは

ホメオパシーの基本理念

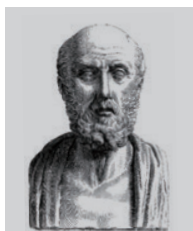
“同種は同種によって治される”

Similia Similibus Curantur

これはホメオパシーの基本的な考え方です。約500年前、スイス出身の医師パラケルススが提唱したこの理念は、さらに古い文献を紐解くと、約5000年前の古代ギリシャ時代、医聖ヒポクラテスの医術にもその起源が見られます。しかし、古代ローマ時代以降、この「同種による医術」は約1500年もの間、歴史の表舞台から姿を消していました。



パラケルスス



ヒポクラテス

ハーネマンによるホメオパシーの体系化

今から約200年前、ドイツの医師ハーネマンが、マラリアに効くとされていたキナの皮を使った人体実験を自らに行いました。すると、彼の体にマラリアに似た症状が現れました。このことによりハーネマンは「同種の法則」を再発見。これを医術として体系化し、同

種療法ホメオパシーが世界の表舞台に登場しました。

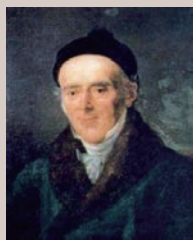
ホメオパシーとは、Homoios(=同種)と、Patheia(=病気・苦痛)を組み合わせた、ハーネマンによる造語(Homoeopathy)です。

$$\text{Homoeo} \quad \text{Pathos} = \text{Homoeopathy}$$

同じようなもの 治す 苦しむ 病気

ホメオパシーの特徴

ホメオパシーとは、同種の法則を根本原則とする自然療法のことであり、穏やかにかつ根本的に、そして安全に治癒させることが可能な療法です。そのため、胎児や赤ちゃんから高齢者まで、さらに動物や植物にも安心して使用できるという大きな特徴を持っています。



Samuel Hahnemann

サミュエル・ハーネマン
(1755年-1843年)

ドイツの医師、翻訳家、
著作家。ホメオパシー
の医療体系を作った。



ハーネマンの代表的な著書である『医術のオルガン 第六版』『慢性病論 第2版』『マテリア・メディカ』は、由井名誉学長の監修のもと、古典ドイツ語から日本語に忠実に翻訳されている。これにより、ハーネマンが遺したホメオパシー哲学を正確に学べるのも、CHhomの大きな特徴の一つ。

二百年前

ヨーロッパでは、今では考えられない治療が行われていた。

ハーネマンです
悩んでいます



病人が健康にならない

早速、ハーネマンは我が身で実験してみた。

く、せろい

発熱

関節の痛み



確かに、マラリアのような症状になる!

瀉血



もうダメだ! 医者はやめよう

水銀カクテル



毒



ゲンナツ

ハーネマンは家族を養うために翻訳の仕事始めた

ハーネマンは語学の達人だった



健康な人がキナ皮をとると

で、他の人にも試してみることに。

節が痛い
ハーネマン

寒気が
がします

熱が出たの

熱いよ
寒いよ



マラリア症状だった人がキナ皮をとると

と、次々と健康を取り戻したのです。

節の痛みが取れた

寒気が無くなった!

熱が下がった

元気になりました

そんな時、カレンの一文がハーネマンの人生を変えたのである。その当時、キナ皮は、マラリアの特効薬として使われていた。

ん?
キナの皮の苦みが
マラリアに効く?

どーして
苦みが
マラリアに効く?



『苦味』ではなくて、『マラリアに似た症状を引き起こすもの』がマラリアの薬になっている

そうか! 同じようなものが
同じようなものを治す!

この方法なら
人々を治療に導ける



ハーネマンは、ホメオパシーの基本となる『同種の法則』を発見したのです。

02

バイタルフォースとは

バイタルフォースとは

生命エネルギーの強さとは、バイタルフォースの回転の勢いです。

バイタルフォースとは、自己治癒力（自然治癒力）、生命力、あるいは生命そのものを指します。これは、私たちを生かそうとする流れや働き、勢いのことです。ホメオパシーでは、このバイタルフォースが生物に命を与えており、病気や不調においても重要な役割を果たすと考えています。

身体や精神に病気や何らかの問題が生じたとき、このバイタルフォースに滞りや不自然な働きがあると捉え、同種の原理を用いてアプローチします。

非物質的な方法によるアプローチ

バイタルフォースは非物質的なエネルギーの流れであり、目に見えません。そのため、この非物質的なエネルギーの問題に対し、物質ではなく非物質的な方法でアプローチすることがとても重要になります。

非物質

レメディのエネルギー

愛ある言葉がけ

インナーチャイルド癒し

信仰心

自然農で育った作物の持つ氣

⋮

これらのアプローチにより、バイタルフォースを整え、私たちが本来持つ自己治癒力を引き出すのです。



03

レメディーとは

レメディーの基本的な考え方

レメディーとは、ホメオパシーの希釈振盪 (P10) という技術によって作られるもので、物質に内在する薬効あるいは情報の波動パターンを、砂糖玉やアルコール液に転写させたものです。レメディーは摂取した人のバイタルフォースにエネルギー的に作用します。

レメディーの原物質

レメディーの元となる物質は、この世の森羅万象あらゆるものが使用されます。

原物質

動物・植物・鉱物

病原体・環境毒物・医薬品

太陽・虹

⋮

また、ZENホメオパシーでは、御神仏様の聖なるエネルギーが込められた水や祈りのレメディー (P19) も取り入れています。

希釈振盪の効果と安全性

この希釈振盪の技術を通じて、毒性のある物質 (例：トリカブト、ヒ素、水銀、アルミニウム、水酸化グラフェンなど) や放射線、電磁波といった生命を破壊させる悪性のエネルギー体

なども、同種の原理で体外へ排泄が促されます。

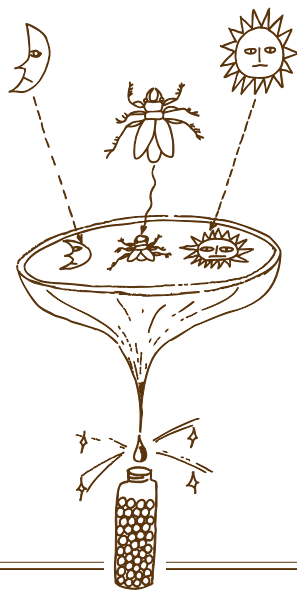
レメディーは波動パターンのみを体を与えるため、副作用がなく、体への負担も少ない安全な療法です。

レメディーは「気づき」を与える

全てのレメディーにはそれぞれ症状像や基調があり、不調を抱えている人が、自分の症状や基調と同種のレメディーをとることによって、その人の生命力の滞りや本来の自然な状態から外れた部分に「気づき」を与えます。

ただし、レメディー自体が病気を治すものではありません。治癒を促すのはあくまでも自分自身の生命力です。ホメオパシーは自らの力で、自分自身の体・心・魂を治す療法です。その結果、バイタルフォースは大きくなり、私たちが本来の自然な姿へと導きます。

レメディーはそのきっかけを与えてくれる、ホメオパシーにおける素晴らしいツールの一つです。



これがホメオパシーの
レメディ―?



この状況は
兄弟げんかに慣れている
親にも伝えている



その頃、体の中の認識は



いきなりこの兄弟が巨大化したら
親も気付く



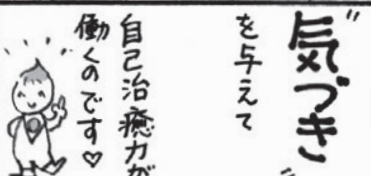
しかし、レメディ―が体に入ると



現実では



……このように
ホメオパシーは
“**気づき**”
を与えて



(自己治癒力)
VFとはバイタルフォース

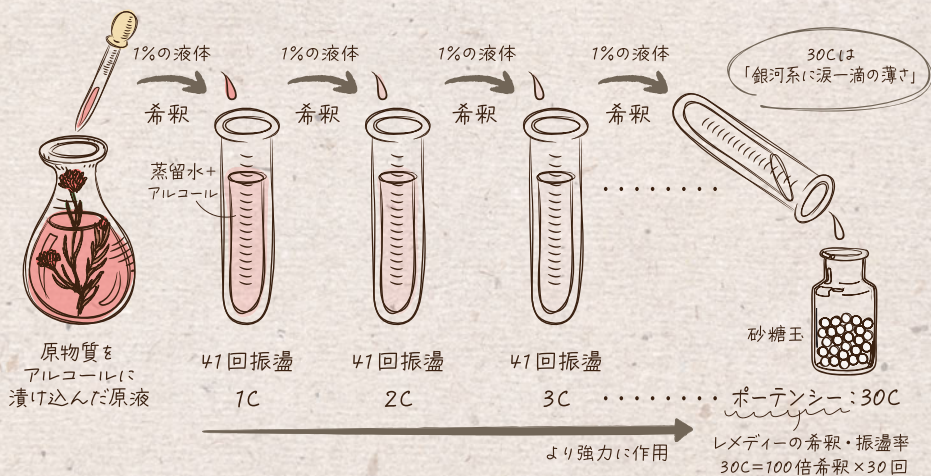
04

希釈振盪とは

希釈振盪技術

ホメオパシーの創始者であるハーネマンは、物質の薬効(情報)のみを水に転写させる技術を研究し、発見しました。これを「希釈振盪(きしゃくしんとう)」と呼びます。

ホメオパシーの「希釈振盪」



希釈 毒の物質を極限まで薄めることで、物質そのものの毒性を完全に取り除く

振盪 叩くことによって、エネルギーパターンを活性化

希釈振盪を何度も繰り返し、原物質の成分を含まない程希釈し、エネルギーパターンだけが活性化された液体を砂糖玉に垂らしたものがレメディーです。

希釈振盪はホメオパシー療法の根幹をなす革新的なテクノロジーです。この技術を通じて、物質のエネルギーは微細化され、生命体に働きかける力が最大限に引き出されます。

もっといろんな物質で実験をしてみよう!

ハーネマンは実験を続けました。

もっといろいろな物質で実験をしてみよう!



実験室

う〜ん

ハーネマンは馬に乗って病気の人々を往診していました。



コトコト

すると、馬で往診していた(掃られていた)レメディーを撰った患者達のほうが回復が早かったのです。



レメディーは掃られて

ちがった

コトコト

少し薄めて、使ってみよう。

薬は毒物だからなあ。薄めたほうが安全だけど、どのくらい薄めても大丈夫なのだろうか。



こうして、希釈・振盪を繰り返すうちに全く物質がなくても効果が出ることをハーネマンは確信したのでした。



フリフリ

どうやら振られるのもいいらしい

最近、凄く調子が良くて

薄めた人



薄めてない人 (現物質のまま)

少し、ましですけど、まだ具合が悪いです。



そうか! 希釈・振盪することによってダイナミックな力が引き出されるのだ!

おぎん

こうやって、ハーネマンの努力と偶然の賜物によって、ホメオパシーが生まれました。



よ〜よ〜

05

ホメオパシーの科学的根拠

水の記憶

ノーベル賞に2度ノミネートされたことのあるフランスの科学者、ジャック・ベンベニスト博士が投稿した論文が、1988年に英科学誌『ネイチャー』に掲載されました。これは「水は通過した物質の情報を記憶する」と証明した研究結果であり、この研究は世界中で追試が行われ、その信憑性が証明されています。また、フランスのウイルス学者であり、HIVウイルスの発見でノーベル生理学・医学賞を受賞したリュック・モンタニエ博士は、「ウイルスを含む水溶液を10の18乗まで希釈すると、理論的にはDNA分子が1つも残っていない計算になるが、そこにはDNA情報が正確に存続している」という論文を発表しています。



◀ 由井眞子名誉学長と
リュック・モンタニエ博士

(参考) 由井名誉学長講演「ホメオパシーと水の科学」▶
<https://tv.toyouke.com/video/264>



これらの研究は、ホメオパシーの希釈振盪技術には科学的根拠があることを示しており、レメディーが単なる経験則や信仰に基づくものではなく、高度な自然科学的理論に裏打ちされた手法であるといえるでしょう。

06

日本の同種療法

日本の優れた同種療法

日本にも昔から同種療法があり、昭和期頃までは田舎を中心に、現代医療にはすぐ頼らず、軽い病の場合は自然界の身近にある同種のもので対処するという文化が残っていました。例えば、鼻水やくしゃみを伴う風邪のひき始めには、刻んだネギと焼いた梅干し、味噌を熱湯で溶いて飲む方法が挙げられます。これは、刻んだネギが鼻水やくしゃみを引き起こす同種の働きをし、焼いた梅干しと味噌には病原菌への抵抗力を高め、血液循環を改善し、免疫力を増進する作用があるためです。昔の日本人は同種の法則をよく熟知し、しかも、そこに対処療法まで組み合わせた処置を行っていました。これらの「民間療法」は、生きる智恵として母から子、子から孫へと受け継がれてきたのです。

実は、江戸期の日本にホメオパシーはもたらされていましたが、日本独自の民間療法があまりにも優れていたため、ホメオパシーが広く根付くことはなかったのかもしれませんが。

吟涅満

Hahnemann

忽没越阿巴智

Homoeopathy

同種療法の歴史は古い

古代ギリシャ
『医学の祖』ヒポクラテス



「同じようなものが
同じようなものを治す」
Similia Similibus Curentur

ショウガ湯の作り方

ショウガを1片
すりおろす
↓
ハチミツ
スプーン大1
↓
熱...お湯に

ショウガのこりこりが
のどのじりじりに効く
からだよ

こりこり = ショウガ

なるほどオ
それが
同種療法
なのね!!

中世ヨーロッパ
パラケルスス 錬金術師
(化学者のほしりとされている)

日本でも同種療法は
昔からあったのです
それが
「おばあちゃんの知恵袋」
のどがイガイガ
すまう

熱が出た時には
熱で...
おはれお茶
冷には
水をかぶる
おはれお茶
おはれお茶

ほーら
ショウガ湯だよ!!

寒さには
強くなる
乾布まき
を...

でも何で
ショウガ湯なの?
それほね...

そーかー、
日本の昔から伝わる
おばあちゃんの知恵袋って
同種療法だったのね

のどが
スッキリ

そーだよ

07

ホメオパシーと現代医療

現代医療における「急性病」

例えば風邪をひいた場合、現代医療での解釈は「熱は怖い」ので熱を下げる解熱剤が投与されます。しかし、熱はバイタルフォースが作動した結果として起こる正しい体の反応です。ウイルスが体内に侵入すると、熱が上がらなければ白血球やマクロファージなどの免疫系は十分に機能しません。体は熱を上げることでウイルスや細菌の動きを遅くし、免疫反応を促進しています。

この必要な反応である熱を解熱剤で無理に下げてしまうと、バイタルフォースの働きが抑圧され、体内に熱の原因が未解決のまま存在し続けることになります。その結果、免疫力が低下し、病気が慢性化したり、再発のリスクが高まったりします。

ホメオパシーにおける「急性病」

一方、ホメオパシーでは「症状はありがたい」と考え、症状は根本的な問題を知らせてくれるサインと捉えます。

風邪をひき熱が出た場合は、より風邪のひき始めのような症状を引き起こす原物質から作られたレメディー「Acon」(アコナイト)が同種の法則に基づき投与されます。すると体は(原物質が全く入っていないものをとったにも関わらず)あたかも風邪のひき始めの熱が

入ってきたと認識し、バイタルフォースが活性化されます。その結果、体は自らの力で熱を下げ、風邪が治ってゆきます。

また、この風邪にかかりきる体験によって免疫力も強化され、結果、だんだん丈夫な体(心)へと変化していくのです。

急性病

急に起こる・スピードがある

突発的な症状

インフルエンザ

かぜ・発熱・下痢

けが・ショック

子どものかかる病気・おたふくかぜ

突発性発疹・とびひ・水疱瘡

⋮

現代医療における「慢性病」

慢性病とは、現代医療において、糖尿病、高血圧、喘息、アトピーなどを指し、「徐々に発症し、治療や経過が長期に及ぶ病気の総称」とされています。これらは「自然には治らない」と定義され、治療としては主に「病気特有の症状」に対して薬剤を投与する方法が取られます。

ホメオパシーにおける「慢性病」

一方、ホメオパシーにおける慢性病の考え方は次のように分類されます。

①体の慢性病

体内にワクチン毒や薬物、重金属、毒物劇物、農薬や添加物、遺伝子組み換え食品などの不自然な物質が蓄積している状態を指します。さらに、これらの異物が体外に排泄され

ずに残る原因として、症状を抑圧したことが挙げられます。

②心の慢性病

怒り、恐れ、悲しみなどの急性の感情が適切に表現されず、抑圧されたまま未解決の状態で内在していることを指します。これがいわゆる「インナーチャイルド」と呼ばれるものです。

③魂の慢性病

「優秀でなければならない」「美人でなければならない」など、この世的価値観に縛られ、自らを裁き、否定している状態を指します。この結果、本来の魂の目的や意志が抑圧され、自由に発揮できなくなっています。

慢性病

ゆっくりと気づかないうちに進行

長い間患っている病気

アレルギー疾患・アトピー性皮膚炎

不定愁訴・なんだか具合が悪い

自己免疫疾患

心の病気

⋮

マヤズムとは

ホメオパシーでは、体・心・魂の慢性病が、代々遺伝を通じて引き継がれるものを「マヤズム」と呼びます。糖尿病、高血圧、アトピーなどの病気も、これらの慢性病が複雑に絡み合った結果として発症すると考えられます。

マヤズムは病気の土壌として考えられ、マヤズム治療をすることによって、病気の根本治療へとたどり着きます。

ホメオパシーと現代医療の協力

ホメオパスは、現代医療と協力しながら実践することを重要視しています。

特に日本における検査技術の高さは、真面目で正確な国民性や、精密な医療機器の優れた機能性と相まって、世界でもトップクラスと言えるでしょう。

現代医療は、目に見える物質的な肉体の異常を的確かつ早期に発見し、緊急を要する場合においては、全国的に整備された医療施設網も含め、大変有効な治療法を提供しています。一方、ホメオパシーは、肉体的な異常が現れる前の段階、つまりエネルギーレベルでの体・心・魂の問題に対処することを得意としています。未病の段階での対処が可能であり、安全に健康維持をするためのサポートができます。

また、同種の法則に基づき、体内に蓄積された毒物や劇物の排泄を促し、深刻な臓器不全状態にアプローチすることも可能です。

しかし、骨折や交通事故、大動脈瘤破裂など、自己治癒力を触発している時間がない緊急事態では、迅速に現代医療の力を借りることが必要不可欠です。

したがって、現代医療とホメオパシーがお互いの弱点を補い合い、得意分野を尊重し協力することは、国民の健康を維持するために極めて重要です。

08

ZENホメオパシー

“ 体・心・魂を
三位一体で癒やす ”



ハーネマン提唱の
ホメオパシー



食の改善
インナーチャイルド癒し
霊性の向上

ZENホメオパシーとは

ZENホメオパシーとは、ハーネマンが確立したホメオパシー医学を忠実に継承しつつ、「もしハーネマンが現代に生きていたなら、どのように治療を行うか」という問いをもとに、由井名誉学長が長年の研究と実践を通じて築き上げた、現代におけるホメオパシー医学の最先端かつ最高峰の治療法です。

なぜ、ZENホメオパシーなのか？

ハーネマンの時代から200年が経過し、医療技術や食環境、生活環境、さらには人々の心の在り方までもが変化し、劣化してきました。その結果、現代の日本では病理が複雑化・慢性化し、難病が増え続けています。このような現状に対応するため、由井名誉学長はハーネマンのホメオパシーをさらに進

化・深化させ、食の改善、インナーチャイルド癒し、信仰心の向上までも組み込んだ総合的なアプローチで、体・心・魂を三位一体で癒やす「ZENホメオパシー」を確立しました。

真の治癒を目指す

体の病気だけを治しても、心の病気（インナーチャイルド）や魂の病気（この世的価値観にとらわれて曇った魂）を癒さなければ、根本的な解決には至りません。

ZENホメオパシーは、真の治癒を目指し、これらすべてにアプローチします。30年以上の臨床経験を持つ由井名誉学長が導き出したこの治療法は、命を扱うホメオパスにとって唯一無二の教えであり、真の治癒を求める人々にとっての最良の道標となるでしょう。

09

インナーチャイルド癒し

インナーチャイルドとは？

インナーチャイルド（以下インチャ）とは、子供の頃に抑圧された未解決な感情（怒り、悲しみ、恐れなど）のことです。強い感情を抑え込むことで、それらは潜在意識に沈み込み、思い通りにならないストレスを生み出します。また、体の病気や心の問題、さらには魂をも曇らせます。

インナーチャイルドが引き起こす問題

癒されないままのインチャは、同じような状況を引き寄せ、現在の出来事に子供の頃の感情を投影するようになります。例えば、子供の頃に「母に愛されなかった」という悲しみのインチャを持つ人は、大人になり恋人の些細な冷たい態度に過剰に反応し、強く愛を求めてしまうことがあります。

インチャが自然に消えることはなく、意識的に辛い過去と向き合い、インチャ癒しを行うことで初めて解消されます。

この「インチャを癒し、生き方や考え方を治さない限り、同じ病気や問題が再発する」という教えは、由井名誉学長が健康相談で長年に渡り多くのクライアントを見る中で確信したものです。

インナーチャイルドの本質と影響

インチャの大元には間違えて信じてしまった

「この世間的価値観」があります。子供の頃に親や他者の価値観を無意識に取り込み、それを自分の価値観として大人になってしまったのです。

インナーチャイルド癒しのプロセス

ホメオパシーにおける大切な考え方は「症状はありがたい」です。体が熱や湿疹を出し切ることで健康になるように、心もまた「感情はありがたい」のです。抑圧された怒りや憎しみを十分に出し切り、「自分は怒りたいし、憎みたい」と認めて受け入れ、そう思うことを許すことが重要です。

その上で、気持ちが悪になったら自分自身に問いかけてみましょう。「なぜこんなに腹が立つのか」と。そうすることで現れるのは、過去に「ダメな子」と責められた小さな自分、つまりインチャです。

その小さな自分に寄り添い、「お母さんに怒られて辛かったね」と優しく声をかけ、慰めてあげましょう。このように、感情に共感し、受け入れ、愛し、慰めることで自分を大切にすることができます。これこそがインチャ癒しのプロセスです。

みんなと仲良く友達にならないと**ダメ**だ。いつも穏やかで、誰からも好かれるような人間にならないと**ダメ**だ。いい大学を出ていないと**ダメ**だし、一流の会社で働いていないと**ダメ**だ。男は強くたくましくないと**ダメ**だ。泣いたら**ダメ**だ。負けたら**ダメ**だ。夫をたてないと**ダメ**だ。女は女らしくしていないと**ダメ**だ。嫁は姑にかしつかないと**ダメ**だ。**ダメ**だ。

この世間的価値観



10

食養生



食養生とは何か

私たちの肉体は「魂の乗り船」であり、さらには「魂の目的を達成するための神殿」です。肉体は日々の食べ物を通じて再生し、エネルギーを得ています。そのため、食を軽んじることは魂の乗り船を軽んじることであり、壊れた船では魂はその目的を十分に遂行できません。

特に、体内に十分なミネラルが不足していると、レメディーによって自己治癒力を触発しても、異物を排出するための体力が足りず、好転反応が長続きして速やかな治癒に向かえません。

ZENホメオパシーにおける食養生の重要性

さらに、自然で健康的な食事から得られる「氣」によって、心も健康になっていきます。健康な心は、感謝や優しさ、思いやり、他者への尊敬といった人間として大切な高次の感情を育み、信仰心の成長にもつながります。由井名誉学長は「作物は神であり仏です。その神であり仏である作物を食べる行為は、まさに天人合一そのものです」と語ります。

三位一体で治療するZENホメオパシーに食養生が大きな位置を占める理由はここにあります。

日本豊受自然農株式会社

日本豊受自然農は、ホメオパスとして多くの治癒に携わる中で、農薬や化学肥料にまみれた作物が、多くの病気を引き起こしている現実を痛感した由井名誉学長が立ち上げました。

固定種・在来種の種を自家採種し、農薬や化学肥料を一切使わずに農作物を育てています。さらに、その作物を原料に、化学合成添加物を使用しない加工品を自社工場で製造しています。

11

信仰心の向上

魂とは

あらゆる存在は存在目的・役割をもっています。その存在目的を「魂」と呼んでいます。存在する以上、存在するもの全てに役目があるということです。

そのため、「自分は何のためにこの世に来て、この世に貢献しようと思っているのだろうか」と、一人ひとりが考える必要があります。

すると、食べ物や水によって「生かされている」自分に気付けます。太陽、月、地球、森、海、川、動物、植物、微生物、土壌菌、大自然、神さまによって「生かされている」自分に気付きます。親、先祖、人々、仏さまによって「生かされている」自分にも気付けます。

信仰心とは

生かされていることへの感謝の心、これを「信仰心」といいます。この信仰心があることで、私たちは謙虚になれます。

御神仏様や魂の存在を否定することは、自分自身や生命全体の否定につながりかねません。その結果、病気や症状の本当の原因や意味を理解しようとせず、すぐに薬で抑え込むなど、生命に対し誤った対処法をとるようになってしまいます。だからこそ、真の治癒を目指すには、信仰心を伴った生き方や考え方を取り入れることが不可欠なのです。

12

水のレメディー・祈りのレメディー

水のレメディーとは

水のレメディーは、由井名誉学長が日本各地の聖なる山野を巡り、湧水や川の水、神社仏閣の手水などを採取し、霊験あらたかなエネルギーでレメディー化したものです。魂の深くへ作用する奇跡的なレメディーであり、ZENホメオパシーにおいて必須のレメディーです。



世界に広がる水のレメディー

ルーマニアのホメオパシー医師であるマリナ・シウマス・リンブ氏も臨床に水のレメディーを取り入れ、素晴らしい成果を挙げています。日本生まれの水のレメディーは、今後ますます世界中の人々の魂に光を灯すでしょう。

祈りのレメディー

また、由井名誉学長が日本各地の聖なる山野や神社仏閣で祈りを込めて作った祈りのレメディーも、水のレメディー同様、魂の深い部分に作用する奇跡的な力を持っています。

13

世界で親しまれるホメオパシー

世界にみるホメオパシー

ホメオパシーは、世界中で約10億人が利用している自然療法です。ドイツで誕生し、フランスやイギリスなどヨーロッパ各国を経て、アメリカ、オーストラリア、アフリカ、アジアなどへ広がり、多くの人々に親しまれています。ヨーロッパでは、現代医療よりも古い歴史を持ち、街中の薬局でレメディーが普通に販売されるなど、日常療法の一つとして広く浸透しています。特にイギリスでは、王室の主治医をホメオパスが務めており、首都ロンドンをはじめ各地に国営のホメオパシー病院が存在します。さらにスイスでは、2009年に行われた国民投票で、国民の67%の支持と全州の賛成を得て、ホメオパシーを含む5つの代替医療が公的医療保険の適用となりました。

また、インドでもホメオパシーは盛んで、現代医学やアーユルヴェーダと並んで医学の三大柱の一つとされています。



ドイツのファーマシー



イギリスのファーマシー



インドのホメオパシー病院の処方室

一方、日本にホメオパシーが本格的に紹介されたのは1996年。由井寅子ホメオパシー博士が日本初のプロフェッショナルホメオパスとして活動を開始したことがその始まりです。それ以来、日本でも徐々に認知が広がり、健康を支える自然療法として注目されています。

一流の人々が選ぶホメオパシー

スポーツ選手、財界人、政治家、芸術家、宗教家といったその道を極める人々が、ホメオパシーを選ぶことは全く不思議ではありません。その理由は、ホメオパシーが安全性が高く、健康を実現する療法であるためです。

例えば、「ギター之神様」と称される世界的な音楽家エリック・クラプトン氏も、由井名誉学長のZENホメオパシーの健康相談を受けてコロナワクチンの後遺症を克服し、現在も精力的に音楽活動を続けています。

ホメオパシーのその効果と価値は、これからもさらに広がり続けることでしょう。



由井名誉学長とエリック・クラプトン氏

14

CHhomについて

CHhomとは

カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー (CHhom)は、日本ホメオパシー医学協会 (JPHMA)認定のホメオパシー統合医療専門学校です。当校では、創設者であり名誉学長の由井寅子が、ドイツ発祥のホメオパシーを現代人の慢性病にも対応できるよう体系化した「ZEN(ゼン)ホメオパシー」を学ぶことができます。

ZENホメオパシーを通して「人間」を学べる

ホメオパスは「命を扱う」という使命を持った職業のため、人を癒す人間作り、そして人間を学ぶことが大切です。学生の皆様が自分のインナーチャイルドを癒し、霊性を上げることで、

謙虚さや感謝・利他の心を持てるようなあり方を学べます。

物事の本質を捉える力を養う

CHhomでは、ホメオパシーの基本原理から実践まで、物事の本質を深く学ぶカリキュラムが整っています。例えば、マテリア・メディカの学習では、レメディーの原材料となる植物、動物、鉱物などの性質や特徴、さらにはそれらの霊的本質についても学びます。こうした学びを積み重ねていくことにより、ミクロコスモスとしての人間の病気を、マクロコスモスである地球や宇宙とのつながりの中で洞察し、物事の本質を捉える力を養います。

History of CHhom

1997	日本初のホメオパシー専門学校、ロイヤル・アカデミー・オブ・ホメオパシー (RAH) 開校
1998	日本ホメオパシー医学協会 (JPHMA) が設立され、認定校となる
1999	英国ホメオパシー医学協会 (HMA) の認定校となる
2005	英国認定ホメオパス連合 (ARH) と提携する

2006	ホメオパス職業保険の成立により、RAH卒業生から初のJPHMA認定ホメオパスが誕生
2009	ホメオパシー教育が中心だったRAHから、インナーチャイルド癒し、食養生、霊性の向上も含めた、統合医療専門学校カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー (CHhom) として新たに出発
2010	ファミリーホメオパスコース開校
2012	インナーチャイルドコース開校

The leading expert on homoeopathy in Japan

由井 名誉学長とホメオパシー >>



由井 寅子 | TORAKO YUI

- 日本におけるホメオパシー第一人者
- 日本ホメオパシー医学協会(JPHMA)名誉会長
- カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー(CHhom)創設者・名誉学長
- 農業生産法人 日本豊受自然農株式会社 代表

日本人初の英国ホメオパシー医学協会認定ホメオパスとなり、英国でホメオパシークリニックを開業。1996年より日本におけるホメオパシーの普及に尽力、日本のホメオパシーの礎を築く。体・心・魂を三位一体で癒すZENホメオパシーを確立し、海外からも高い評価を得ている。

Chapter 1_ホメオパシーとの出会い

私は、自身の辛い潰瘍性大腸炎がホメオパシー治療によって治癒した経験があります。ホメオパシーの根幹であるレメディーの刺激によって自己治癒力が触発され、体は急性症状(高熱や体の痛み)を引き起こしました。この症状は、私が26歳のときにインフルエンザを薬で抑えたために、かかり切り、ひき切ることができず、未解決となっていたものでした。

治癒の過程では、抑圧していた怒りや悲しみの感情もどっと湧き出し、泣いたり怒ったりを繰り返しましたが、それとともに心が軽くなるのを実感しました。体だけでなく心も生き生きとし、この体験は私の人生を大きく変えました。この過程を通じて、体や心の未解決な問題は症状や感情が浮上しなければ浄化されないことを痛感し、ホメオパシーが自己治癒力を刺激し、自分本来の命を取り戻すための療法であることを覚りました。

Chapter 2_ホメオパシー専門家としての歩み

この経験をきっかけに、私はイギリスのホメオパシー学校で5年間学び、認定ホメオパスとなりました。その後、多くのクライアントを支援する中で、1人では対応しきれなくなり、日本でホメオパスを育成するために「ロイヤル・アカデミー・オブ・ホメオパシー(RAH)」を開学しました。

13年間で500名以上のホメオパスを輩出し、2010年には、250年前のホメオパシーの限界を突破するために、まずはホメオパシーの原点(ハーネマンの原典)に立ち返り、それを土台として現代の難病にも適応できるZENホメオ

パシーを教えるため、「カレッジ・オブ・ホリステック・ホメオパシー (CHhom)」を設立しました。

Chapter 3_ ホメオパシーの限界を超えるために

私が感じていたホメオパシーの限界とは、例えば、病気が一度治癒しても再発して戻ってくるケースや、難病のクライアントが治癒に至らないケースがあることです。

その原因を探るうちに、以下の課題が明らかになりました。

- 現在のホメオパシー療法が、ハーネマンの原典に基づいていない
- 病気治療には霊性や感情の抑圧であるインナーチャイルド癒し、食養生が不可欠である
- 現代医学(病理学、生理学、解剖学)の知識と同時に医原病に対するアプローチが必要

Chapter 4_ 価値観の見直し

私は幼少期に「頑張らない者はダメだ」という親から常に教え込まれていたために、その結果、大人になってからその価値観で体がポロポロになるまで働き、辛いときも薬を飲んで頑張り、心が辛いときも弱音を吐かず、泣くこともせずに頑張り続けました。その結果、ついに潰瘍性大腸炎を発症したのです。

その潰瘍性大腸炎をホメオパシーで治していただいたとき、涙がポロポロ出てきました。自分の考え方や生き方の間違いに気づき、インナーチャイルド癒しに取り組み始めました。

いらん子の私は、これまで母親に愛されたい一心で優秀になろうと頑張ってきたインチャに気づき、他者に母を投影し、怒り、悲しみ、恐

れていたことに気づき、母への未解決の感情を一つずつ解放していきました。この作業は、母に何度も殺されかけた私にとって本当に辛く苦しいものでしたが、ダメな自分を認め、受け入れ、許し、愛することを繰り返しやっとなかなか、徐々に価値観を緩めることができました。

結局、感情が乱れる出来事、嫌な出来事、辛く苦しい出来事、それらの出来事を辛く苦しいものになっているのは、自分自身の心(インナーチャイルド)であり、それを映す鏡として感情が乱れる出来事が生じるのです。

Chapter 5_ ストレスと病気の関係

感情は、思い通りにならない状況で生じる強い願望でありストレスです。未解決な感情のインナーチャイルドという慢性的なストレスが急性のストレスを引き起こしています。

ストレス時は交感神経優位になって筋肉が硬直し血の流れが悪くなります。するとエネルギー生産がミトコンドリア系から解糖系に移るため著しく非効率になり、ミネラルを無駄に使い果たすこととなります。このように、ストレスが体の病気を作り出しているのです。

また、体の症状を薬で抑圧すると医原病が生じ、感情の抑圧は心の慢性病(インナーチャイルド)を形成し、これがさらなる体の病気を引き起こします。感情の元となる価値観を解放しなければ、根本的な治癒は難しいのです。

Chapter 6_ 人生そのものがホメオパシーだった

ホメオパシーは感情や価値観の解放を一時的に促しますが、大元のインナーチャイルドを意

識的に癒していかなければ、苦しみは繰り返されます。

しかし、ホメオパシーをツールとして活用することで、感情や価値観の解放が加速し、インナーチャイルド癒しを進めることが可能です。私にとって、人生そのものがホメオパシー治療（同種療法）でした。辛く苦しい出来事は、ダメな自分を許し、受け入れるための学びの機会であり、それを一つずつ受け入れることで本当の平安が訪れました。

この体験を通じて、体・心・魂が繋がっていること、そして根本的な癒しにはこれら全ての調和が必要であることを深く実感しました。

Chapter 7_食とホメオパシー

私たちの体は、私たちが食べたものでつくられています。

そのため、食べ物の質が悪ければ、体に悪影響を及ぼし、病気の原因となります。質の悪い食事では、いくらレメディーをとっても健康を維持することは難しいでしょう。健康の土台は良質な食事であり、それは自然農法で育てられた作物から得られるものです。

しかし現代人は、予防接種や薬の多用、農薬や化学肥料を使用した作物、遺伝子組み換え食品、食品添加物など不自然なものが大量に体内に入り、またそれら食品のミネラル不足によって病気になっている人が多いのではと考えるようになりました。

この背景を受けて「人間は体・心・魂の三位一体である」ということを念頭に、ホメオパシーを中心とし、インナーチャイルド癒しや食事療法、ハーブ療法など他の方法も取り入れ、

体・心・魂まで癒せるホメオパスを育てる学校としてCHhomを設立しました。

Chapter 8_愛する力を育む教育

病気の根本原因は、自分を愛せないことにあります。無意識のうちに自分を否定するインナーチャイルドを抱えているために病気になるのです。治癒するには、まず、この世的価値観でいう「ダメな自分」を受け入れることが不可欠です。そして患者が自分を受け入れるためには、ホメオパスが無条件の愛を持って接することが何よりも重要です。

ホメオパスとしての土台は愛です。その上にホメオパシーの技術が成り立つのです。

CHhomでは、ホメオパシーの学びだけでなく、自分を愛し、他者や自然を愛する力を育む教育を重視しています。日々の出来事で、感情が乱れるたびに「なぜ腹が立つのか」「なぜ悲しいのか」を自分に問いかけ、価値観を見直す訓練を重ねていきます。自分を許し、受け入れることで愛に満ちた人間になり、患者に寄り添えるホメオパスになれるのです。

Chapter 9_信仰心と霊性の向上

魂の健康を取り戻すには、この世的価値観を手放すこと、そして、大いなる存在を信じる信仰心が重要です。信仰心とは、自然や太陽といった偉大なものに感謝し、生かされていることを実感する心です。それは私たちの本質を見つめ、自分自身の命を生きる原動力となります。ホメオパスが自らのインナーチャイルドを癒し、この世的価値観を解放し、信仰心と霊性を高めることができれば、体・心・魂を統合

的に治癒へと導ける存在になれるはずです。
そのような大きな器を持つホメオパスが増える
ことを、心から願っております。

Chapter 10 「人はどう生きるべきか？」を学べる

CHhomでの学びの多くは、ホメオパシー中心
ではありますが、それ以上に「人はなぜ病気にな
るのか?」「なぜ、人生が苦しみに満ちてい
るのか?」「なぜ、人間関係がうまくいかないの
か?」などの問いを、皆さんが長年持たれて葛
藤しているならばなおのこと、この学校での教
えは大切になるでしょう。授業の中に、答えが
網羅されています。

それゆえ、人はどう生きるべきかが分かり、人
生が光り輝き、生きやすくなってゆくでしょう。
その中心的な学びとは、ホメオパスとして治療
家になることもさることながら、私たち命ある
ものは大自然の一部として大いなるものに生
かされているという「理」を知ること、赦しと
受け入れが増え、感謝と愛に満ちた自分にな
れるということです。



ホメオパシーの恩恵が降り注がんことを！

万物生命、その存在自体に感謝し、

命そのものを生きられんことを！





プロフェッショナルホメオパス

毎年6月開講

eラーニング

4年制

ライブ

このコースは、ZENホメオパシーを中心にプロフェッショナルホメオパスとして活動するために必要なホメオパシーの知識や技能、さらに現代医学の基礎知識を学びます。そして、クライアントを体・心・魂の三位一体で治療に導くホメオパスを目指します。そのためには、まず自分自身を深く見詰め、インナーチャイルドを癒し、この世的価値観を手放しながら靈性を向上させていくことが必要になります。このように、ZENホメオパシーを通して「人間」を深く学びながら自身も成長できる点が、CHhomのプロフェッショナルホメオパスコースの大きな特徴です。



由井名誉学長の貴重な健康相談の臨床をライブで見学できます。



日本ホメオパシー医学協会(JPHMA[®])の認定ホメオパスを目指します。

※ホメオパス職業保険に加入できる日本で唯一の団体



特設サイトで
もっと詳しく見る



ファミリーホメオパス

随時開講

eラーニング

Zoomライブ

1年制

このコースは、家族や親戚、友人など大切な人の健康を自分で守りたい方、家庭での日常的な症状や心のショックにホメオパシーを活用したいという方のためのコースです。全国のJPHMA認定ホメオパスとCHhomが共同で開催しており、最寄りやお好きなホメオパスの元で学ぶことができます。



レメディの基本キットを使いこなし、セルフメディケーションを学びます。



インナーチャイルド

毎年9月開講

eラーニング

ライブ

全21回



「触れる(触覚)」の講義

インナーチャイルドコース
特設サイト



子供の頃に生じた感情が抑圧されると、その感情は潜在意識に深く沈みインナーチャイルドとして残ります。このコースでは、インナーチャイルドを、潜在意識から顕在意識へと浮上させ、苦しみに光を当てて癒していきます。



日本のフラワーエッセンス

毎年9月開講

eラーニング

全6回

植物の生命力が凝縮されたフラワーエッセンス。特に日本の花は、私たち日本人の繊細な心に深く響くことでしょう。このコースでは、フラワーエッセンスの歴史や、日本の様々なフラワーエッセンスの特徴と使い方、さらにケーススタディなどを学びます。



フラワーエッセンス研究家 東昭史

CHhom 東京校

学校、健康相談センター、レストラン、
自然食品を販売するショップ、クリニックが併設。

〒158-0096
東京都世田谷区玉川台2-2-3 矢藤第3ビル

☎ 03-5797-3250 ✉ chhom@homoeopathy.ac
(営業時間：火-土 9:30-17:00)

- 東急田園都市線 用賀駅(南口) 徒歩8分
- 瀬田交差点より100m



Homoeopathy center



日本ホメオパシーセンター東京本部

由井寛子日本ホメオパシーセンター総センター長はじめ、CHhom 卒業生のホメオパスによる健康相談会を受けることができます。

☎ 03-5797-3136 (完全予約制) 🕒 火-土 9:30-17:00

Toyouke clinic



医療法人 豊受会 豊受クリニック

CHhom プロフェッショナルホメオパスコースの卒業生であり、自然派医師の高野弘之医院長が、現代医療の診察や検査などを行っています。

☎ 03-5797-2702 (完全予約制) 🕒 火-金 9:00-12:00 / 14:00-18:00

Toyouke organics shop & restaurant



豊受オーガニクスショップ&レストラン

豊受自然農産の野菜や加工品・無添加コスメを販売するオーガニックショップと、老若男女が楽しめる安心安全で美味しい食を提供するレストランです。

☎ 03-5797-3252 🕒 火-日 **ショップ** 10:00-20:00
レストラン 11:30-15:00 / 17:00-21:00

2024年12月19日
リニューアルオープン!

Kenkosyoku seikatsu Kyoto



豊受自然農の健康食生活 京都店

東京と同じくオーガニクスショップと、豊受自然農でとれた野菜たっぷりの御膳が食べられるカフェが併設。下鴨神社からすぐです。

〒606-0817 京都市左京区下鴨西林町12-3
☎ 075-741-6761 🕒 火-日 **ショップ** 10:00-18:00 **カフェ** 11:00-18:00

